

◆ 事務局

「令和 7 年度建築士定期講習」の日程について

令和 4 (2022) 年度に受講された方は今年度が受講年度です。昨年度から申込方法が変わりました。

・建築技術教育普及センターのホームページからインターネットでお申込み

・紙の申請書 (普及センターのホームページからダウンロード) を富山県建築士会へ郵送

のいずれかの方法でお申し込みください。3 年前に普及センターの建築士定期講習を受講された方には、年度初めに普及センターから案内が届きます。

会場 コード	日 程	会 場	講 義	定 員
3B-05	令和 8 年 3 月 5 日 (木)	サンシップとやま	DVD	60

時間: 9:20~17:30 (受付 9:00~)

受講料: 12,980 円 (消費税・テキスト含む) ※テキストは当日配布します。

申込先: 建築士会事務局 平日 9:00~17:00

問合先: 建築士会事務局 担当: 佐藤

※詳細は建築士会ホームページをご覧ください。

令和 7 年度建築関係技術者のための「監理技術者講習」(DVD 講習)の日程について

本年度最後の監理技術者講習を下記の日程で実施します。

回	開 催 日
⑥	令和 8 年 3 月 19 日 (木)

会場: 富山県建築設計会館 3 階

時間: 受付 9:00 開始 講習+試験 9:30~17:25

※詳細は日本建築士会連合会ホームページをご覧ください。

◆ 富山県木造住宅生産体制強化推進協議会

高性能住宅のための実務研修会のご案内(県委託事業)

主に中小工務店の設計・工事関係者を対象に、高性能住宅(断熱性や省エネ性に優れた住宅)の基礎的な知識と設計・施工に係る実務や改正法制度概要並びに富山県の施策について解説する標記講習会を開催します。

開催日・開催場所:

①12月12日(金) 富山県教育文化会館

(定員に達したため締め切りました)

②12月22日(月) 高岡文化ホール

開催時間: 13:00~16:30

詳細は先月号同封のチラシ又は本会 HP をご覧ください。

◆ 婦負支部

「スキルアップ講習」開催のご案内

日時: 令和 7 年 12 月 20 日 (土) 15:00~17:00 (受付 14:30~)

会場: 婦中ふれあい館 2 階 視聴覚室

(富山市婦中町砂子田 1-1)

内容: 『インテリアカラーの配色理論を学ぶ vol.2』

建築、インテリアカラーの基本、配色理論などを学ぶ。

講師: 村井 朋子氏 (インテリアコーディネーター養成講座専任講師)

建築 CPD: 2 単位の申請予定 (CPD カードをお持ち下さい。)

定員: 先着順 20 名 (どなたでも参加できます。)

参加費: 会員・学生 無料 会員外 1,500 円

申込先・申込期限: 令和 7 年 12 月 17 日までメール又はファックスで下記まで

(E-mail: matsu-ki@city8.com FAX: 076-454-6779)

問合先: 婦負支部 担当: 松本 (TEL: 090-7746-1625)

◆ 富山県土木部建築住宅課

木造住宅耐震リフォーム「達人塾」(施工演習コース) 開催のご案内

日時: 令和 8 年 1 月 19 日 (月) 9:30~16:30

会場: 富山県木材研究所 (射水市黒河新 4940)

講師: 井戸田 秀樹 氏 (名古屋工業大学) ほか

内容: 耐震改修の低コスト工法の施工のノウハウの実務演習など

(県ホームページ: 右記二次元コードのとおり)



建築 CPD: 5 単位の申請予定

定員: 先着順 40 名 (どなたでも参加できます。)

参加費: 5,600 円 (資料代を含む)

申込先・申込期限: 令和 7 年 12 月 26 日

でフォーム(達人塾事務局)で申込み

(フォーム: 右記二次元コードのとおり)

(URL: <https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSe93YTh5HbF0s8jebXjJFDeZa7c7zqq81WDHAuckDpjuFAJag/viewform>)

問合先: 富山県土木部建築住宅課

担当: 松島 (TEL: 076-444-3356)



ホットラインのホームページ掲載について

1 月号から従来より早いタイミングで
本会ホームページに掲載いたします。
トップページ下方の「ホットライン企画情報とやま」より
ご確認ください。

◇国指定重要文化財「旧嶋家住宅の解説会」報告◇

開催日：令和7年10月18日（土）11：00～13：00

会場：立山町芦峯寺古屋敷37番地 旧嶋家住宅

講師：上野幸夫氏（職藝学院学院長/一般社団法人高志の国歴史的建造物保存再生研究所会長）

参加人数：会員12名 学生1名 計13名

国指定重要文化財の旧嶋家住宅は、令和6年9月より耐震補強工事とともに、屋根・外壁や建具類の補修工事を行ってきました。令和7年8月に工事が完了しましたので、設計監理の内容や旧嶋家住宅の魅力を解説して頂きました。



土間（ダイドコ）で説明を受ける



南背面は閉鎖的な外観

棟木まで直接伸びる「棟持柱」が複数あり、小屋組みまで一体化したものは全国的にも珍しいそうです。

この構造は、耐震性に優れており、限界耐力計算でも良い結果が出ているとのこと。補強については、襖内部に面格子を入れたり、建具に補強を施した工夫を解説していただきました。

屋根は3寸勾配の石置き板葺き屋根で、正面だけは登り梁の出桁方式の軒であり、意匠的な町家の特徴も兼ね備えているとのことでした。移築前は高山に通じる飛騨街道の細人村片掛の街道沿いに建てられていた事もあり、高山の枡格子と、町家ならではの上げ蔭戸の意匠の融合も、特徴の一つでした。



直接棟木を受ける
シンボリックな棟持柱

建物を維持していく上で補修は欠かせませんが、かつては地域の「結い」によって支えられていたその営みも、今では受け継ぐことが難しくなっています。時代の流れの中で建物が現代的に変化していく一方で、伝統的な建築のあり方をどのように残していくかを考えさせられました。